

福島県立相馬支援学校

福島県南相馬市

設計・監理／田畑建築設計事務所
施工／大豊・常磐特定建設工事共同企業体



南東側より見る*



上／南側全景 下／ふれあいコート

計画の概要

相馬支援学校は、開校以来約50年にわたり相馬地方の特別支援教育の中心的な役割を担ってきた学校施設である。

今回特別支援教育のさらなる充実発展のため、また校舎の老朽化や在籍児童生徒の通学範囲の広域化等の理由から、建設地を隣接市である南相馬市に移して新築したものである。

新たに建設される特別支援学校は計画にあたり、①施設のユニバーサルデザイン化、②障がいに応じた教育環境、③健康に配慮した施設、④環境・安全に配慮した地域にやさしい学校施設、⑤情報化への対応、⑥地域と連携した施設環境の整備、⑦地震等の災害に対する安全性の確保、⑧非常時の避難経路の確保

以上8つの基本的な考え方を基にし、東日本

大震災からの「復興のシンボル」として、また地区の復興を支える人材を育成する拠点施設として位置づけられている。

設計主旨

建設地は阿武隈山系、太平洋に囲まれた豊かな自然の中にあり、のびのびとした環境の中で心豊かにたくましく成長することを目的とした計画を心がけている。また必要な諸室を機能的に配置すること、同時に安全で明るく快適であること、地域にも開放された校舎内のいたるところで交流が生まれること等を目指した。

—「ひろがり」と「落ち着き」を重視した全体計画
施設の配置計画においては、必要な機能（駐車スペース、グラウンド等）を除いたスペース全域を施設建設エリアとした2階建て校舎とし、児童生徒の移動の安全と活動のひろが

りをもたせることを目指している。

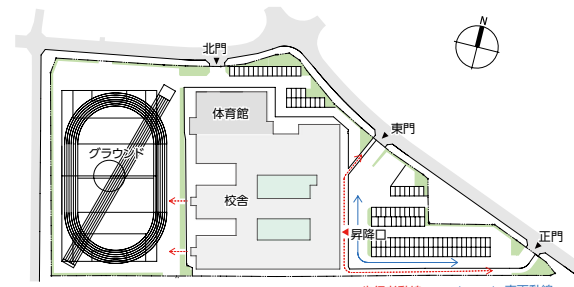
また、小学部から高等部までの通学生の生活エリアを適切にグルーピングした計画とすることで、学校生活に落ち着きを持たせることを重視した。

—「ふれあい」を大切にしたい内部の計画
校舎内部においては年齢毎のエリア分けを適切に行いながら、各所にふれあいをテーマにした場所づくりを行っている。昇降口正面の「溜まり（ラウンジ）」は地域開放機能と連携した利用が可能であり、種々の室が面する「廊下（通り）」はゆとりを持たせることで世代を超えた交流が可能、「中庭（コート）」においては、校舎内部を行き交う人たちが確認でき安心を感じさせる。「ふれあい」をテーマにすることで児童生徒、教職員、地域の方々が肩を寄せ合いながら成長する空間を目指している。

—「やさしさ」を重視した細部の計画

学校内の細部については度重なる協議を行っている。特に施設内10力所を超える水回り（トイレ等）については、小中高エリア毎や利用する児童生徒に対応したしつらえとしている。将来この学校を利用する全ての方々（児童生徒、教職員等）に思いを馳せながら快適で安全な細部設計を行っている。

(田畑建一／田畑建築設計事務所)



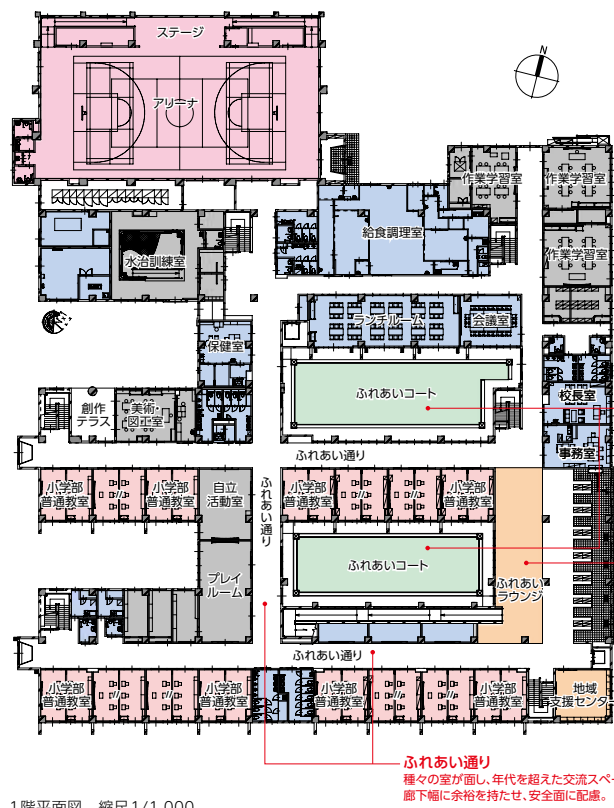
配置図 縮尺1/4,000



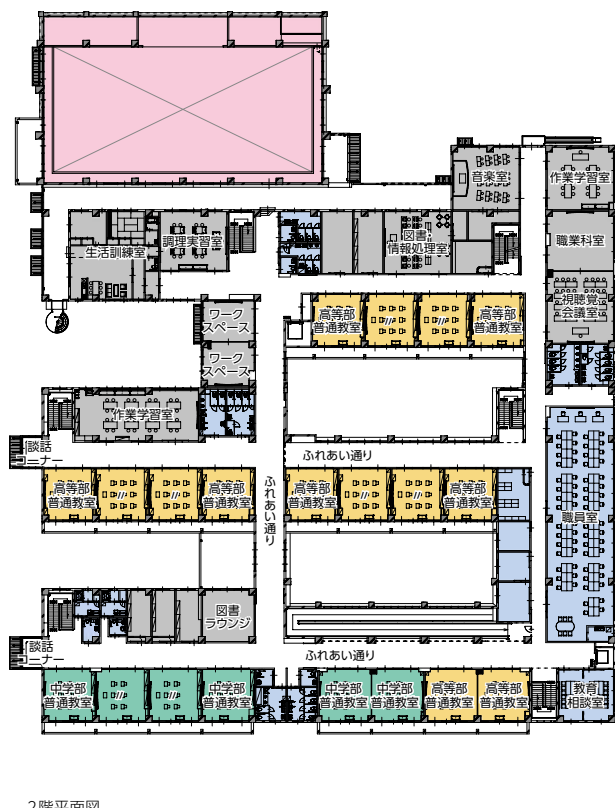
ふれあいラウンジと昇降口



左上/中学部普通教室前のふれあい通りを見通す 右上/小学部ふれあい通り 右中/談話コーナーより外部を望む 右下/アリーナ 左下/ふれあいコートよりランチルームを見る



1階平面図 縮尺1/1,000



2階平面図

ふれあいコート
ランチルームとの一体的な利用が可能。
校舎内部に光と風をもたらし、
行き交う人たちの気配が感じられる。

ふれあいラウンジ
児童生徒と地域の方々との交流エリア。
地域開放機能との連携利用も可能。
明るく開放的な空間。

ふれあい通り
種々の室が面し、年代を超えた交流スペース。
廊下幅に余裕を持たせ、安全面に配慮。

- 小学部普通教室
- 中学部普通教室
- 高等部普通教室
- 特別教室部門
- 管理部門
- 地域開放機能



小学部普通教室



作業学習室



水治訓練室



躯体施工時の状況



岡 利明……おか としあき
1968年北海道生まれ。1989年北海道中央工学院専門学校 建築工学科設備コース卒業。1989年大豊建設入社。現在、同社東北支店建築部作業所長

施工計画

本工事を進めるにあたり、事業計画として2020年春開校、同年2学期からグラウンド使用開始となっていたため、工程順守が絶対条件となっていた。他の震災復興事業と相まって作業人員の確保が厳しい中、これをどう確保し、工程を順守できるかが懸案であった。建物は校舎3棟と運動場がつながっており、各々を一工区として4つの工区とし、順序よく施工することで人員のロスをなくすよう計画した。搬入動線の確保、施工の効率化を図るため、基礎工事段階から3基のタワーレーンを設置し、建物の中央部まで資材の搬入を行えるようにした。また、躯体は在来

RCだったが、鉄筋先組工法を採用し、可能な限り工場で組みあげた鉄筋を現場で組立てることにより施工精度を上げたほか、スラブ型枠をデッキスラブに変更したことと併せて工程と人員不足に対応した。工区別の並行作業の弊害として掘削作業と隣接して型枠建込や、コンクリート打設横での内装仕上げ材組立等通常行わない近接作業が発生し、相互の安全確保に苦慮した。結果、監督員、監理者の協力の下、開校までに建物を引き渡すことができた。現在、グラウンド整備工事を行っており、2学期開始時に引き渡す予定で工事が進捗している。
(岡 利明/大豊建設)

福島県立相馬支援学校 データ

所在地 福島県南相馬市鹿島区寺内 地内
主要用途 特別支援学校
建築主 福島県
設計・監理 田畑建築設計事務所
設計担当/建築：田畑建一、佐藤義則(田畑建築設計事務所) 構造：鈴木秀一(構造プランニング) 電気：八島一隆(八島企画設計) 機械：高荒頼行(企画設計社)
監理担当/建築・外構：田畑建一、佐藤義則(田畑建築設計事務所) 電気：狩野孝之(ティーエム企画) 機械：佐藤耕二(設備企画エイクイブ)
施工 建築 大豊・常磐特定建設工事共同企業体 担当/岡 利明、緑川和寿
電気 広栄電設 担当/尾形文優、高野和志
機械 伊藤冷機工業 担当/大泉 剛、佐藤昭夫
外構 大豊建設 担当/金子弘幸
設計期間 2017年2月~2018年2月
工事期間 2018年10月~2020年2月(建築・電気・機械) 2019年8月~2020年8月(外構)

【建築概要】

敷地面積 21,517.43㎡
建築面積 5,494.5㎡
延床面積 9,616.67㎡
建ぺい率 22.5% (許容60%)
容積率 44.7% (許容200%)
構造規模 RC造 地上2階
地域地区 福島県相双地区
【学校施設】
クラス数 小学部：15教室 中学部：6教室 高等部：14教室
特別教室 美術・図工室×1、創作テラス×1、音楽室×1、図書・情報処理室×1、調理実習室×1、視聴覚会議室×1、自立活動室×1、職業科室×1、作業学習室×5(陶芸・紙すき・織物・総合サービス)、ワークスペース×2、ブレイルーム×1、生活訓練室(2LDK)×1、水治訓練室×1
【グラウンド】 クレイ舗装仕上げ、直走路(100m 6レーン)、200mトラック(6レーン)
その他 ランチルーム×1、給食調理室×1、ふれあいコート×2、ふれあいラウンジ×1、図書ラウンジ×1、地域支援センター×1、教育相談室×2、屋内運動場×1
管理諸室 校長室、職員室、事務室、会議室、保健室
特殊設備 太陽光発電設備：システム容量 31.6kW
【主な外部仕上げ】
屋根 校舎：アスファルト防水 露出防水絶縁工法
屋内運動場：ガルバリウム鋼板 勘合式瓦棒葺き
外壁 コンクリート打放し下地 複層仕上げ塗材
一部 コンクリート下地 磁器質タイル張
アルミ製建具、鋼製建具、鋼製軽量建具
外構 駐車場(アスファルト舗装)、通路(インターロッキングブロック舗装)

【主な内部仕上げ】

普通教室(小学部、中学部、高等部) 床/直貼フローリング(t12)貼 腰壁/杉板(堅羽目t12)目透かし UC2 壁/シナ合板(t5.5)目透かし UC2、木製パーティション

天井：ロックウール吸音板(t9)直張り仕上げ
職員室 床/OAフロア下地 ビニル床タイル(t4)貼 腰壁/杉板(堅羽目 t12)目透かし UC2 壁/強化石膏ボード(t12.5)目透かし EP2
廊下 床/直貼フローリング(t12)貼 腰壁/杉板(堅羽目t12)目透かし UC2 壁/強化石膏ボード(t12.5)目透かし EP2 天井：化粧石膏ボード(t9.5)
屋内運動場(アリーナ) 床/鋼製床組(H300)下地 天然木フローリング張(t18)ポリウレタン樹脂クリア塗壁/天然木長尺化粧合板(WHF加工t12)横張、シナ有孔合板(t5.5)ガラスウール(t50入り)目透かし UC2 天井/野地板(高圧毛セメント板 ロックウール吸音板面)表し

撮影/近代建築社(葛西 龍)
*撮影/リムーヴ(栗原 崇)

協力会社

足場材リース	カセツリース
鉄筋継手部 超音波第三者検査	溶接検査
P C 緊張工事	黒沢建設
コンクリート圧送工事	第一圧送
屋根工事	元旦ビューティ工業
金属製建具工事	オギノ
金属製建具工事	小松ウオール工業
鋼製建具工事	中央鋼建
シャッター・間仕切り工事	三和シャッター工業
建具製造(イスターカーテン)	T O K O
防水・塗装工事	日新商事
校舎フローリング・体育館調度床工事	染野製作所
造作工事・家具工事	石川 營 板
水治訓練室プール工事	太陽興産
厨房機器設備工事	中西製作所
避難用すべり台	石塚防災商事
外構工事	大成ロテック